支援先の学校からのメッセージ、次々と

へき地校

バキュームクリーナー、ニュースポーツ用具などの備品・教材を希望したのは**留萌市立東光小学校**。「子どもたちが教材を楽しく使っている様子を見てもらえたら」との理由から、休み時間に室内カーリングで遊んでいる姿を先生が撮ってくれました。「どちらも今まで学校になかった新しい教材です。このような教材を寄贈いただき、ありがとうございました」とコメントを寄せてくれました。

熊本県の**球磨村立球磨清流学園**から届いた写真に写っているのは、国語の勉強をする１年生。机の中央に置いてあるのが、今回の支援で、同校が希望した「めもりタイマー」です。残り時間を数字だけでなく、バーで表示させることができます。「児童自身が時間を意識しながら課題に取り組むことができるようになってきています」と先生が子どもたちの様子を教えてくれました。

液晶テレビを活用している風景を写した写真が届きました。「これまで、２年生の教室にだけ備え付けのテレビがなく、授業のたびに移動させていました」と振り返るのは、大分県の**国東市立国見中学校**の校長先生。もうその必要はなくなりました。ICT 機器を活用した授業に力を入れていることから、とてもありがたく感じたとのことでした。他に、ハンズフリー拡声器も寄贈しました。

和歌山県の**古座川町立三尾川小学校**から、備品を持ってポーズを決めている子どもたちの写真が届きました。

今回の支援で、万国旗、空気清浄機、デジタルカメラを希望しました。空気清浄機を選んだ背景を、「へき地の極少数人数校のため、一人の欠席が学習活動や学校活動に大きな影響を与えてしまいます」と校長先生。大いに活用し、子どもたちや職員の健康を守りたいとのことです。

徳島県の**三好市立東祖谷中学校**の先生が撮ってくれたのは、生徒がボッチャをしている姿です。

以前からボッチャで遊ぶ機会はあったそうですが、道具がなく、新聞紙を丸めたものを使っていました。「今回寄贈していただいたことで、生徒の間でボッチャブームが起きています。生徒対教員の試合はとても白熱します」とのこと。喜んでもらえたことが伝わってきました。

長崎県の**対馬市立豆酘（つつ）中学校**から届いたのはモバイルプロジェクターの活用の様子を写した写真です。

サイズが小さくて軽く、持ち運びやすいモバイルプロジェクター。早速、３年生の国語の授業や、全校生徒が総合的な学習の時間でプレゼンテーションをするのに活用されました。「映し出される画像はクリアで文字や写真をはっきり見ることができます」と先生は話しました。

コートブラシを使ってグラウンドを整備する、黒板拭きをクリーナーできれいに保つ、大勢の生徒にハンズフリー拡声器を使って説明する、タイマーを使って時間内に問題を解く……。熊本県の**上天草市立龍ヶ岳中学校**から４枚の写真が届きました。寄贈品を活用している姿です。「長年使っていたものが古く、そろそろ買い替えの時期だと思っていました」と先生は話してくれました。

生徒たちの目線の先にある液晶テレビと、それを支えるディスプレイスタンドが今回寄贈した品物です。写真は、広島県の**三次市立作木中学校**から届きました。「テレビの台数がなく、ひっぱり合いだった」と振り返るのは教頭先生。体育館にあるテレビを理科室に持っていき、使い終わったら体育館に戻すといった具合に移動させる必要がありましたが、今回の寄贈で不便さが解消されました。

鹿児島県の**薩摩川内市立長浜小学校**から、パネルシアターを使っている写真が届きました。パネルシアターは、布のような感触の大きなパネルに人形などの素材を貼り付けることができる教材で、音読劇の授業に活用できます。先生は選んだ理由を「子どもたち自身が背景を設定したり、登場人物を動かしたりできます。協力して読み上げる活動ができるように希望しました」と教えてくれました。

青森県の**佐井村立牛滝小学校**に、財団から贈ったのは拡大印刷ができる大判プリンターです。「とても小さな学校で予算にも限りがあり、整備が難しい状況でした」と先生。写真に収められているのは、総合的な学習の時間に牛滝地区の神楽についてまとめ、その資料を印刷している場面です。「自分たちが作成した資料が大きく拡大されて出てくる様子を見て、大変喜んでいた」といいます。

北海道の**雨竜町立雨竜中学校**は、大判プリンターを贈った学校です。写真には、プリンターで拡大印刷した大きな用紙を持っている生徒の姿が写っています。同校では受験を控えた３年生を応援しようと、生徒会が応援プロジェクトを企画。「桜の花の形に切り取った画用紙に応援メッセージを書き、それを大判プリンターで印刷した木に貼り付けて廊下に掲示するプロジェクト」だそうです。

財団ホームページでは
各校の特色をより詳しく
ご紹介しています
ぜひご覧ください!!

特別支援学校

京都府立井手やまぶき支援学校が希望したのはサイバーホイール。透明の大きな筒に入って動くと、回転するつくりになっていて、室内でも全身を動かすことができます。バランスをとろうと体が自然と動くことから、遊びながら運動感覚を養える教材です。

「透明で、周りを見ながら入ることができ、子ども自らが回転させながら遊んでいる。中に入っている玉がバランスをとる目安となり、鈴の音も楽しめている」とのことです。

愛知県立豊田高等特別支援学校は、一般企業等への就労を目指し、職業教育に重きを置いています。製造業への就職が多く、中でも最近は「清掃」作業をする機会が増えているそうです。「これまでは掃き掃除がメインでしたが、ここ数年でスティッククリーナーを使う事業所が増えました。対応できるようにするため、学校でも清掃時間に生徒が使わせたらどうかという声が出ていました」と選んだ背景を先生が説明してくれました。

院内学級

熊本県立熊本かがやきの森支援学校江津湖療育医療センター分教室から、「巧技台」を使っている写真が届きました。今年度の院内学級支援校のひとつです。

巧技台は、運動の目的に応じて、パーツをアスレチックのように組み立てられる教材です。「ダイナミックに体を動かす学習をしたいと考え、すべり台型に組み立てた」そうです。「滑る感覚や体の傾きを感じながら楽しく体を動かすことができた」とのことでした。